

校長室から (N0. 44)

これからの学校の在り方

昨日、3 学期の始業式を無事終えることができました。びっくりするような大雪に学校再開も危ぶまれましたが、放生津小学校の子供たちは元気いっぱいです。心から喜ばたいです。



本日から通常の日課となり、パワーアップタイムの縄跳び運動もスタートしました。「縄跳び」一つ実施するに当たっても、新型コロナウイルスを踏まえた活動の在り方を考えねばなりません。

例えば…、感染予防の観点から、マスクは必須。夏には、熱中症を心配しマスクを外す場面があったな。この時期だからこそ、縄跳びで心身を鍛える大切な機会になるし…等々。

コロナ禍の中でどう折り合いを付けていくべきでしょうか。

結果、体育主任は、このように子供たちに呼びかけました。

「縄跳びをする際には、マスクを外さずに行います。つらくなったら、自分で跳ぶのを止めてください。ですから、今年は、跳んだ数を競うのではなくて、苦手な跳び方に挑戦したり、もっとスムーズに跳べるようになることを目標にしたりしていくのですよ。」と。

新たな目標をもたせることで、新しい生活様式に即した教育活動を提供することができていました。

学校において、感染状況を踏まえ、学習活動を工夫していくことが大切です。そうしながら、可能な限り学校行事や教育活動を継続することで、子供たちの健やかな学びを保障していく—これが、求められるこれからの学校の在り方—と考えます。

